

1章 確率

問 1

$$P(A) = \frac{40}{160} = \frac{1}{4}, \quad P(B) = \frac{54}{160} = \frac{27}{80},$$

$$P(A \cap B) = \frac{15}{160} = \frac{3}{32}$$

よって

$$P_A(B) = \frac{P(A \cap B)}{P(A)} = \frac{\frac{3}{32}}{\frac{1}{4}} = \frac{3}{8}$$

$$= \frac{\frac{3}{32} \times 32}{\frac{1}{4} \times 32} = \frac{3}{8}$$

$$P_B(A) = \frac{P(A \cap B)}{P(B)} = \frac{\frac{3}{32}}{\frac{27}{80}} = \frac{3}{108}$$

$$= \frac{\frac{3}{32} \times 160}{\frac{27}{80} \times 160} = \frac{15}{54} = \frac{5}{18}$$

問 2

$$n(\Omega) = 6^2 = 36$$

また、2個のさいころの目の出方を (a, b) で表す.

(1) $n(A) = 3^2 = 9$ であるから

$$P(A) = \frac{9}{36} = \frac{1}{4}$$

(2) 2個のさいころの出る目がともに偶数のとき、目の出方の総数は、 $3 \times 3 = 9$ 通りであり、この条件のもとで、出る目の和が3の倍数となるのは、 $(2, 4), (4, 2), (6, 6)$ の3通りであるから

$$P_A(B) = \frac{3}{9} = \frac{1}{3}$$

(3) $P(A \cap B) = P(A)P_A(B)$

$$= \frac{1}{4} \times \frac{1}{3} = \frac{1}{12}$$

問 3

選ばれた学生の国語の得点が70点以上である事象を A 、数学の得点が70点以上である事象を B 、英語の得点が70点以上である事象を C で表すと

$$P(A) = \frac{7}{10}, \quad P_A(B) = \frac{6}{10} = \frac{3}{5}, \quad P_{A \cap B}(C) = \frac{4}{10} = \frac{2}{5}$$

よって、求める確率は

$$P(A \cap B \cap C) = P(A)P_A(B)P_{A \cap B}(C) = \frac{7}{10} \times \frac{3}{5} \times \frac{2}{5} = \frac{21}{125}$$

問 4

A, B, C がくじに当たる事象をそれぞれ A, B, C で表す.

(1) $P(A) = \frac{4}{20} = \frac{1}{5}$

(2) $P(\bar{A}) = \frac{4}{5}, \quad P_A(B) = \frac{3}{19}, \quad P_{\bar{A}}(B) = \frac{4}{19}$ であるから

$$P(B) = P(A)P_A(B) + P(\bar{A})P_{\bar{A}}(B)$$

$$= \frac{1}{5} \times \frac{3}{19} + \frac{4}{5} \times \frac{4}{19}$$

$$= \frac{3+16}{5 \cdot 19} = \frac{1}{5}$$

(3) $P_{A \cap B}(C) = \frac{2}{18} = \frac{1}{9}$ であるから

$$P(A \cap B \cap C) = P(A)P_A(B)P_{A \cap B}(C) = \frac{1}{5} \times \frac{3}{19} \times \frac{1}{9} = \frac{1}{285}$$

(4) $P_A(\bar{B}) = \frac{16}{19}, \quad P_{A \cap \bar{B}}(C) = \frac{3}{18} = \frac{1}{6}$ であるから

$$P(A \cap \bar{B} \cap C) = P(A)P_A(\bar{B})P_{A \cap \bar{B}}(C) = \frac{1}{5} \times \frac{16}{19} \times \frac{1}{6} = \frac{8}{285}$$

(5) C が当たるのは、(3), (4)の場合に加えて、 A がはずれて B が当たったとき、 C が当たるとした場合と、 A がはずれて B もはずれたとき、 C が当たるという場合がある.

$P(\bar{A}) = \frac{16}{20} = \frac{4}{5}, \quad P_{\bar{A}}(B) = \frac{4}{19}, \quad P_{\bar{A} \cap B}(C) = \frac{3}{18} = \frac{1}{6}$ であるから

$$P(\bar{A} \cap B \cap C) = P(\bar{A})P_{\bar{A}}(B)P_{\bar{A} \cap B}(C) = \frac{4}{5} \times \frac{4}{19} \times \frac{1}{6} = \frac{8}{285}$$

また、 $P_{\bar{A}}(\bar{B}) = \frac{15}{19}, \quad P_{\bar{A} \cap \bar{B}}(C) = \frac{4}{18} = \frac{2}{9}$ であるから

$$P(\bar{A} \cap \bar{B} \cap C) = P(\bar{A})P_{\bar{A}}(\bar{B})P_{\bar{A} \cap \bar{B}}(C) = \frac{4}{5} \times \frac{15}{19} \times \frac{2}{9} = \frac{40}{285}$$

以上より

$$P(C) = \frac{1}{285} + \frac{8}{285} + \frac{8}{285} + \frac{40}{285} = \frac{1+8+8+40}{285} = \frac{57}{285} = \frac{1}{5}$$

問 5

1 から 600 までの偶数の個数は、 $600 \div 2 = 300$ より、

$$2 \times 1 = 2$$

$$2 \times 2 = 4$$

...

$$2 \times 300 = 600$$

の 300 個だから、 $P(A) = \frac{300}{600} = \frac{1}{2}$

1 から 600 までの 3 の倍数の個数は、 $600 \div 3 = 200$ より、

$$3 \times 1 = 3$$

$$3 \times 2 = 6$$

...

$$3 \times 200 = 600$$

の 200 個だから、 $P(B) = \frac{200}{600} = \frac{1}{3}$

また、 $A \cap B$ は、選んだ数が 6 の倍数であるという事象である.

1 から 600 までの 6 の倍数の個数は、 $600 \div 6 = 100$ より、

$$6 \times 1 = 6$$

$$6 \times 2 = 12$$

...

$$6 \times 100 = 600$$

の 100 個だから、

$$P(A \cap B) = \frac{100}{600} = \frac{1}{6}$$

以上より、 $P(A)P(B) = \frac{1}{2} \times \frac{1}{3} = \frac{1}{6} = P(A \cap B)$ であるから、

A と B は互いに独立である.

1 から 400 までの偶数の個数は、 $400 \div 2 = 200$ より、

$2 \times 1 = 2$
 $2 \times 2 = 4$
 \dots
 $2 \times 200 = 400$
 の 200 個だから、 $P(A) = \frac{200}{400} = \frac{1}{2}$
 1 から 400 までの 3 の倍数の個数は、 $400 \div 3 = 133.3\dots$ より、
 $3 \times 1 = 3$
 $3 \times 2 = 6$
 \dots
 $3 \times 133 = 399$
 の 133 個だから、 $P(B) = \frac{133}{400}$
 また、 $A \cap B$ は、選んだ数が 6 の倍数であるという事象である。
 1 から 400 までの 6 の倍数の個数は、 $400 \div 6 = 66.6\dots$ より、
 $6 \times 1 = 6$
 $6 \times 2 = 12$
 \dots
 $6 \times 66 = 396$
 の 66 個だから、 $P(A \cap B) = \frac{66}{400} (= \frac{132}{800})$
 よって、
 $P(A)P(B) = \frac{1}{2} \times \frac{133}{400} = \frac{133}{800}$
 であるから、 $P(A \cap B) \neq P(A)P(B)$ となり、 A と B は互いに独立ではない。

問 6

1 回目に当たらないという事象を A 、2 回目に当たらないという事象を B とすると、 $P(A \cap B)$ が求める確率である。

- (1) A と B は互いに独立なので
 $P(A \cap B) = P(A)P(B)$
 $= \frac{6}{8} \times \frac{6}{8} = \frac{9}{16}$
- (2) 確率の乗法定理より、
 $P(A \cap B) = P(A)P_A(B)$
 $= \frac{6}{8} \times \frac{5}{7} = \frac{15}{28}$

問 7

この選手が 1 回の打席でヒットを打つ確率は $\frac{1}{3}$ であるから、求める確率は

$$\begin{aligned}
 {}_5C_3 \left(\frac{1}{3}\right)^3 \left(1 - \frac{1}{3}\right)^2 &= {}_5C_2 \left(\frac{1}{3}\right)^3 \left(\frac{2}{3}\right)^2 \\
 &= \frac{5 \cdot 4}{2 \cdot 1} \cdot \frac{1 \cdot 2^2}{3^5} \\
 &= \frac{40}{243}
 \end{aligned}$$

問 8

1 回の試行で、表が出る確率、裏が出る確率はいずれも $\frac{1}{2}$ である。

- (1) 求める確率は
 ${}_6C_3 \left(\frac{1}{2}\right)^3 \left(\frac{1}{2}\right)^3 = \frac{6 \cdot 5 \cdot 4}{3 \cdot 2 \cdot 1} \cdot \frac{1^3 \cdot 1^3}{2^6}$
 $= \frac{5}{16}$
- (2) 少なくとも 1 回表が出る事象を A とすると、 \bar{A} は、1 回も表が出ない事象を表す。

$$\begin{aligned}
 P(\bar{A}) &= {}_6C_0 \left(\frac{1}{2}\right)^6 \\
 &= 1 \cdot \frac{1}{64} = \frac{1}{64}
 \end{aligned}$$

よって

$$\begin{aligned}
 P(A) &= 1 - P(\bar{A}) \\
 &= 1 - \frac{1}{64} = \frac{63}{64}
 \end{aligned}$$

問 9

選んだ従業員が男性であるという事象を A_1 、女性であるという事象を A_2 、社宅に住んでいるという事象を B で表すと

$$P(A_1) = \frac{75}{100}, P(A_2) = \frac{25}{100}$$

$$P_{A_1}(B) = \frac{40}{100}, P_{A_2}(B) = \frac{20}{100}$$

求める確率は、 $P_B(A_1)$ であるから、ベイズの定理により

$$\begin{aligned}
 P_B(A_1) &= \frac{\frac{75}{100} \times \frac{40}{100}}{\frac{75}{100} \times \frac{40}{100} + \frac{25}{100} \times \frac{20}{100}} \\
 &= \frac{\frac{75 \times 40}{10000}}{\frac{75 \times 40 + 25 \times 20}{10000}} \\
 &= \frac{3000}{3000 + 500} \\
 &= \frac{30}{35} = \frac{6}{7}
 \end{aligned}$$

問 10

取り出した製品が A 社、B 社、C 社の製品であるという事象をそれぞれ A, B, C 、不良品であるという事象を D で表すと

$$P(A) = \frac{2}{10}, P(B) = \frac{3}{10}, P(C) = \frac{5}{10}$$

$$P_A(D) = \frac{2.5}{100}, P_B(D) = \frac{1.5}{100}, P_C(D) = \frac{1}{100}$$

- (1) $P(D) = P(A)P_A(D) + P(B)P_B(D) + P(C)P_C(D)$
 $= \frac{2}{10} \times \frac{2.5}{100} + \frac{3}{10} \times \frac{1.5}{100} + \frac{5}{10} \times \frac{1}{100}$
 $= \frac{5 + 4.5 + 5}{1000}$
 $= \frac{14.5}{1000} = \frac{29}{2000}$

(2) ベイズに定理により、取り出された不良品が A 社の製品である確率は、

$$P_D(A) = \frac{\frac{2}{10} \times \frac{2.5}{100}}{\frac{29}{2000}} = \frac{10}{29}$$

取り出された不良品が B 社の製品である確率は、

$$P_D(B) = \frac{\frac{3}{10} \times \frac{1.5}{100}}{\frac{29}{2000}} = \frac{9}{29}$$

取り出された不良品が C 社の製品である確率は、

$$P_D(C) = \frac{\frac{5}{10} \times \frac{1}{100}}{\frac{29}{2000}} = \frac{10}{29}$$